

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(2/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
北海道フード・コンプレックス 国際戦略総合特区 (北海道、札幌市、江別市、函館市、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、北海道経済連合会)	4.1	4.3  進捗度 ・輸出に必要な国際認証・登録等数等 170%  ・企業と一次産業との連携プロジェクト数 110%  ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額 67% 等	3.9  規制の特例等 ・農業経営改善 自家用貨物自動車活用事業 等  財政支援等 ・総合特区設備等投資促進税制  ・総合特区支利子補給金 等  地域独自の取組 ・商品の競争力強化促進事業 等	4.0	<p>・ある程度の進展は見られる。地域独自の取組が大きいですが、国が力を入れる「食」に関わるものであるため、国の方の規制緩和にアピールする部分をもっとあってもよい。</p> <p>・北海道独自の機能性表示制度の運用の展開、財政支援事業への取組等を引き続き行っていることは評価される。</p> <p>・コロナ禍の中で十分な実績を上げていると考えられる。</p> <p>・食品の輸出入の進捗度については、令和2年度のみの実績で判断すべきとは思えず、次年度の実績も注目したい。しかしながら、コロナ禍の長期化も懸念される中で、多くの期待は難しいと思われる。</p>